

# 1 5 . 林業普及指導

## 1 5 - 1 林業普及指導事業の概要

本事業は、林業普及指導員を配置して、試験研究機関による研究成果の現地実証等を行い、森林所有者等に対して、林業に関する知識・技術の普及と森林施業にかかる指導を行う事業であり、林業技術の改善、林業経営の合理化、森林の整備等を促進し、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に資するものである。

林業普及指導員は、国が行う資格試験に合格した県職員の中から任命されるものであり、林業普及指導事業の基本的役割を踏まえ、下記事項を重点課題として取り組んでいる。

- ① 森林の有する多面的機能の発揮に資する高度な技術を、採算性を確保しつつ定着させること
- ② 効率的かつ安定的な林業経営を担う人材の育成、確保を図ること
- ③ 地域全体で木材利用の推進を図り、林業生産活動を活性化させ、森林整備を促進させること
- ④ 特用林産物の生産増大を図り、林業従事者の所得の向上、雇用の確保を促進させること

## 1 5 - 2 林業普及指導事業の内容

### (1) 巡回指導、地域運営

沖縄県林業普及指導実施方針に基づき、林業普及指導員が計画的に管内を巡回し、地域の特性に応じた適切かつ効果的な普及指導活動を行う。

また、林業普及指導の活動の円滑化を図るため、必要な資機材の整備を行う。

### (2) 普及指導員の研修

林業普及指導員の資質の向上を図るため、国等が行う研修等に積極的に派遣させる他、県独自に研修を実施する。

ア. 中央研修：林野庁が実施する研修

イ. 総合研修：県が実施する林業普及指導活動に必要な技術知識等の全般的な研修

ウ. 特技研修：専門項目毎に重点事項について実施する研修

エ. 地区研修：地域毎に具体的課題に対し、解決方策等の検討を実施する研修

### (3) 林業技術現地適応化事業

林業技術の改善とその普及を促進するため、森林・林業に関する試験研究成果を現地で実証し、技術の適応化を図る事業である。

これまで、次の課題について現地適応化事業を実施した。

年 度	課 題	場 所
平成19	環境保全型低コスト集材システムの検討	国頭村
20～22	菌床シイタケ栽培技術	名護市、東村、大宜味村、八重瀬町
23	マツ青変菌等の被害防止技術	石垣市
24	シイタケ廃菌床を利用した菌床シイタケ栽培技術	名護市
25～26	Mスターコンテナ苗の栽培技術	名護市、読谷村
27	山菜（ホウビカンジュ）の林間栽培試験	国頭村
28～29	早生樹種の育成技術	国頭村

#### (4) 林業普及情報活動システム化事業

林業普及指導員が計画的に情報活動を実施するため、情報システム整備及び特定情報調査を行う事業である。

##### ア 情報システム整備

各地域における林業経営及び技術の動向並びに林業試験研究機関等における試験研究の成果等に関する情報を収集整理すること。

##### イ 特定情報調査

林業の機械化、森林被害の予防、防除等のうち早急に普及指導の対象者に普及する必要がある特定の項目について、情報を収集し調査を実施すること。

近年、実施した項目は次のとおりである。

年 度	課 題	場 所
平成19～20	デイゴヒメコバチ発生消長調査	沖縄全域
21	フクギの黄化衰退被害の実態調査	沖縄全域
22	リュウキュウマツ枯損被害の実態調査	宮古島市
23	タイワンハムシによるハンノキ被害調査	沖縄本島全域
24	ナガマドキノコバエ誘引捕獲調査	沖縄本島、宮古島市
25	デイゴヒメコバチ発生消長調査	沖縄全域
26	野生きのこ発生調査	沖縄全域
27	菌床しいたけ栽培マニュアルの作成	沖縄全域
28	クヌギの資源量調査	沖縄本島北部
29	造林分野における既存の調査研究まとめ	沖縄全域

### 15-3 林業後継者育成対策等事業の概要

#### (1) 林業普及指導協力員の活用

普及対象者の拡大及び技術内容の高度化に対応するために森林・林業に関する専門的な技術や知識を備えた人材を普及指導協力員に認定し、その活用を行うことによって、効率的な普及指導活動を展開している。

なお、配置している普及指導協力員は次のとおりである。

平成30年4月1日現在

No.	氏名	所在	分類	専門分野
1	上野 和昌	名護市	森林インストラクター	森林教育
2	山城 勝則	大宜味村	その他	特用林産
3	平田 嗣雄	東村	指導林家	特用林産
4	山城 健	国頭村	その他	林産
5	亀島 克夫	沖縄市	樹木医	森林保護
6	本部 強	八重瀬町	その他	特用林産
7	仲地 本吉	名護市	その他	特用林産
8	新城 元吉	宮古島市	指導林家	特用林産
9	佐和田 勝彦	宮古島市	青年林業士	造林・森林保護
10	上原 学	名護市	青年林業士	特用林産
11	我如古 光男	与那原町	その他	特用林産
12	宮城 健	西原町	その他	特用林産・緑化
13	徳山 孝亀	石垣市	青年林業士	造林・森林保護
14	大宜見 浩	宜野湾市	その他	森林保護
15	渡口 直樹	国頭村	その他	森林教育
16	比嘉 進	国頭村	その他	林産
17	山川 安雄	国頭村	その他	森林利用

## (2) 林業後継者育成

### ① 就業の促進

林業への就業等の促進に資するため、新規学卒者等の就業希望者の意向調査、林業事業体の受入実態等に関する調査、林業・林産業の現地見学並びに林研グループ等の交流研修を実施している。

### ② 林業教室等の開催

林業従事者等への高度な技術、知識を習得させるため、また将来において林業の担い手となる可能性のある者を対象に、森林・林業の基礎的な知識、技術を習得させることを目的として、林業教室等を開催している。

#### 林業教室等実績

年度	受講者数（人）	備考
平成元年～5	197	
6～10	118	
11～15	115	
16～20	110	
21	137	
22	130	
23	216	
24	248	
25	176	
26	153	
27	289	
28	301	
29	445	
計	2,635	

## (3) 森林・林業普及啓発推進

一般県民や児童生徒等の森林・林業への理解の促進を図るため、林業普及指導員がイベントや学校等で、森林の役割や林業の意義等について講話を行う他、森林散策や木工クラフト等の体験学習会を実施している。

平成29年度、実施した活動内容は次のとおりである

項目	内容	開催場所	参加者	回数	人数
木育学習会	森林環境教育 木育、木工クラフト	県内全域	県民、 児童生徒他	17	1,236
緑の少年団 体験学習会	森林散策、 木工クラフト			3	375
				20	1,611

## 15-4 林業研究グループの活動

林業従事者の自主的な実践活動を促進するとともに、林業技術・知識の向上を図るため、林業後継者を中心に林業研究グループを結成し、学習及び地域活動等を展開する。また、下表の林業研究グループは、沖縄県林業研究グループ連絡協議会を結成し、相互の連絡調整を行っている。

平成30年4月1日現在

No	林業研究グループ名	所在地	代表者	男性	女性	合計
1	沖縄県林業研究グループ連絡協議会	那覇市泉崎1-2-2 (沖縄県森林管理課内)	佐和田 勝彦	(県内合計)	(県内合計)	(県内合計)
				78	26	104
2	国頭村林業研究会	国頭村与那	賀数 安志	18	3	21
3	沖縄北部森林組合林業研究グループ	名護市宇茂佐	松田 啓三	15	2	17
4	やんばる菌床しいたけ研究会	名護市宇旭川	上原 学	2	0	2
5	県森連林業研究会	南風原町字大名	北川 泰久	10	0	10
6	具志頭村竹炭林業研究会	八重瀬町字仲座	新地 修	2	2	4
7	渡嘉敷林業研究グループ	渡嘉敷村阿波連	金城 淳夫	1	2	3
8	南ヒラタケ林業研究グループ	八重瀬町字具志頭	本部 強	3	2	5
9	沖縄市林業研究グループ	沖縄市池原	内間 宏政	4	1	5
10	栗国村ワテツ味噌林業研究グループ	栗国村字東	安谷屋 英子	0	13	13
11	宮古森林組合林業研究グループ	宮古島市平良字東仲宗根	佐和田 勝彦	14	1	15
12	八重山森林組合林業研究グループ	石垣市字石垣	石垣 宗正	9	0	9

## 15-5 林業普及指導員の配置

### (1) 一号林業普及指導員の配置

試験研究機関、市町村、林業団体及び教育機関等と密接な連携を保ち、林業に関する専門の事項又は普及指導活動の技術及び方法について調査研究を行うとともに、広域的な普及指導を行う職員の配置は以下のとおりである。

配置先	専門事項	配置人数
農林水産部森林管理課	林業経営	1人 (林業経営、特用林産、林業機械)
〃	林産	1人 (林産、林業経営、機能保全)
〃	特用林産	1人 (特用林産、造林、森林保護)
		3人

### (2) 二号林業普及指導員の配置

森林所有者、その他林業を行う者又は林業に従事する者に直接接して、林業に関する知識・技術の普及と森林施業にかかる指導を行う職員の配置は以下のとおりである。

普及区	計	主として専門的に行う分野						
		林業経営	造林	森林保護	森林機能	林産	特用林産	林業機械
沖縄北部	3人		1	1			1	
沖縄中南部	2人			1			1	
宮古・八重山	3人		2			1		
計	8人		3	2		1	2	

※「一号」、「二号」は、沖縄県職員の給与に関する条例第31条第1項に示す職務規定の該当号に由来する。

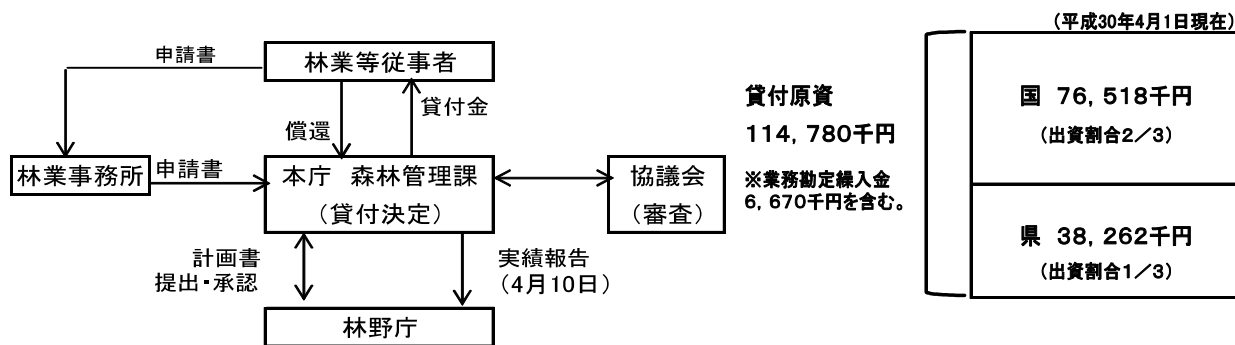
# 1 6 . 林業金融

## 1 6 - 1 林業・木材産業改善資金貸付事業

### (1) 目 的

林業及び木材産業の健全な発展を一体的に推進することを目的として、林業者・木材産業従事者が経営の改善等に必要な設備を導入する先駆的な取組に対して、県が中・短期の資金の貸し付けを無利子で行う事業である。

沖縄県は昭和 59 年度から林業・木材産業改善資金貸付事業を始め、その原資は、国が 3 分の 2 を補助し、残り 3 分の 1 を県が負担して造成している。



※( )で記載された時期は目安となります。

## 2 貸付の限度額等

### ・貸付限度額

借受者	限度額
個人	1,500 万円
会社	3,000 万円
団体	5,000 万円

### ・償還期間

貸付金額	償還期間
500 万円未満	5 年以内
500 万円以上	10 年以内

### ・連帯保証人及び担保

貸付金額	連帯保証人	担 保
50 万円未満	1 名以上 ただし、担保を提供した場合は不要とする。	連帯保証人に代えることができる。
50 万円以上 500 万円未満	2 名以上 ただし、担保を提供した場合は不要とする。	連帯保証人に代えることができる。
500 万円以上 1,000 万円未満	2 名以上	提 供
1,000 万円以上	3 名以上	提 供

## 3 貸付実績推移

年 度	件数	金 額
昭和59年度～平成22年度	115	439,604
平成24年度	2	8,627
平成25～29年度	0	0
計	117	448,231

## 16-2 沖縄振興開発金融公庫資金

沖縄振興開発金融公庫は、政策金融（本土における株式会社日本政策金融公庫、独立行政法人住宅金融支援機構、独立行政福祉法人福祉医療機構）を一元的、総合的に行い、沖縄における産業の開発を促進するため、長期資金を供給する機関である。

林業関係の資金としては、木材の加工・流通に必要な施設を整備する沖縄農林漁業経営改善資金、造林事業や林道建設等に活用する林業基盤整備資金、きのこなど特用林産物等の生産施設を整備する農林漁業施設資金等がある。

### 利用実績（林業部門）

（単位：百万円）

資金名	合計		沖縄農林漁業 経営改善		林業基盤整備		農林漁業施設				農林漁業セーフ ティネット資金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	共同利用施設		主務大臣指定施設		件数	金額
年度	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
昭和49	1	17			1	17						
50	9	346			8	336			1	10		
51	6	341	1	6	4	323	1	12				
52	4	69	1	47	3	22						
53	1	12							1	12		
54	9	423	2	57	6	365			1	1		
55	13	186	2	69	10	116			1	1		
56	11	198	6	67	5	131						
57	3	112	1	83	2	29						
58	8	98	1	17	7	81						
59	5	33			5	33						
60	8	70			8	70						
61	12	110			12	110						
62	5	63			5	63						
63	12	83			11	81			1	2		
平成元	11	133			7	87	3	42	1	4		
2	7	126			4	111	2	13	1	2		
3	8	63			5	33	2	28	1	2		
4	10	181			10	181						
5	4	10			4	10						
6	9	218			8	206			1	12		
7	7	123			7	123						
8	7	124			7	124						
9	9	148			8	125			1	23		
10	10	188			8	164			2	24		
11	8	142			8	142						
12	8	117			8	117						
13	7	82			7	82						
14	7	105			6	97			1	8		
15	11	187			9	144			2	43		
16	8	132			7	122	1	10				
17	7	166			5	117	2	49				
18	8	166			7	109			1	57		
19	8	95	1	19	6	73					1	3
20	3	23			3	23						
21	6	80	1	34	5	46						
22	4	36			4	36						
23	4	32			4	32						
24	4	30			4	30						
25	2	36			2	36						
26	2	15			2	15						
27	2	15			2	15						
28	1	9			1	9						
29	1	10			1	10						
計	290	4,953	16	399	246	4,196	11	154	16	201	1	3



### 16-3 農林漁業信用基金（林業・木材産業信用保証業務）

#### (1) 目的

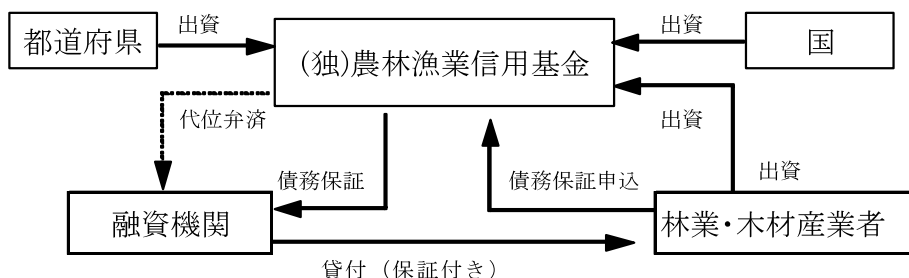
林業信用保証は、林業・木材産業者が経営の改善に必要な資金を金融機関から借入れる場合、その借入れに係る債務を低率で保証し、資金の融資を円滑にすることを目的としている。

（独）農林漁業信用基金の事務所は、東京都に置かれ、全国の事務を一か所で集中して処理しているため、各都道府県に相談員を置き、基金利用者の便宜を図っている。

#### (2) 制度の仕組み

この保証業務の運営に要する資本金は「国」、「都道府県」及び利用者たる「林業者等」の三者の出資でもって構成されている。

事業者が、農林漁業信用基金から保証を受けて融資機関から借入れをしようとする場合は、あらかじめ同基金に対して出資を行う必要がある。融資の際の保証限度額は、出資額の39倍以内である。



#### (3) 出資・保証実績（平成30年3月31日現在）

##### ・全国の出資状況

（単位：千円）

区分	出資額	構成比
国	15,308,766	67.5%
都道府県	3,775,558	16.7%
林業者等	3,579,836	15.8%
合計	22,664,160	100.0%

##### ・沖縄県の出資状況

（単位：千円）

区分	出資額	構成比
沖縄県	3,969	36.4%
林業者等	6,920	63.6%
合計	10,889	100.0%
沖縄県の保証倍率		39.0%

##### ・保証実績

（単位：千円）

年度	金額	年度	金額
昭和47～平成元年	138,400	20	30,000
2	16,000	21	110,000
3	20,000	22	90,000
4	16,000	23	179,000
5～13	-	24	55,000
14	20,000	25	55,000
15	50,000	26	25,000
16	50,000	27	0
17	70,000	28	24,000
18	50,000	29	0
19	60,000	計	1,058,400

# 1 7 沖縄県県民の森

## (1) 設置

沖縄県県民の森は、森林・林業の普及・啓発と森林レクリエーションの場として、昭和61年恩納村安富祖に開設した。総面積181ヘクタールの敷地に遊歩道、森林学習展示館、森林科学館、キャンプ場、冒険広場、スポーツの森等が整備され、多くの県民に親しまれている。

平成28年には、祝日「山の日」の制定や本島北部のやんばる3村（国頭、大宜味、東村）に広がる森林が国立公園に指定されるなど、森林に対する関心の高まりと併せて、森林・林業へのニーズも多様化しており、その対応として、本来の役割を強化しつつ、観光の振興、教育や地域経済にも貢献しうる施設の管理運営が求められている。

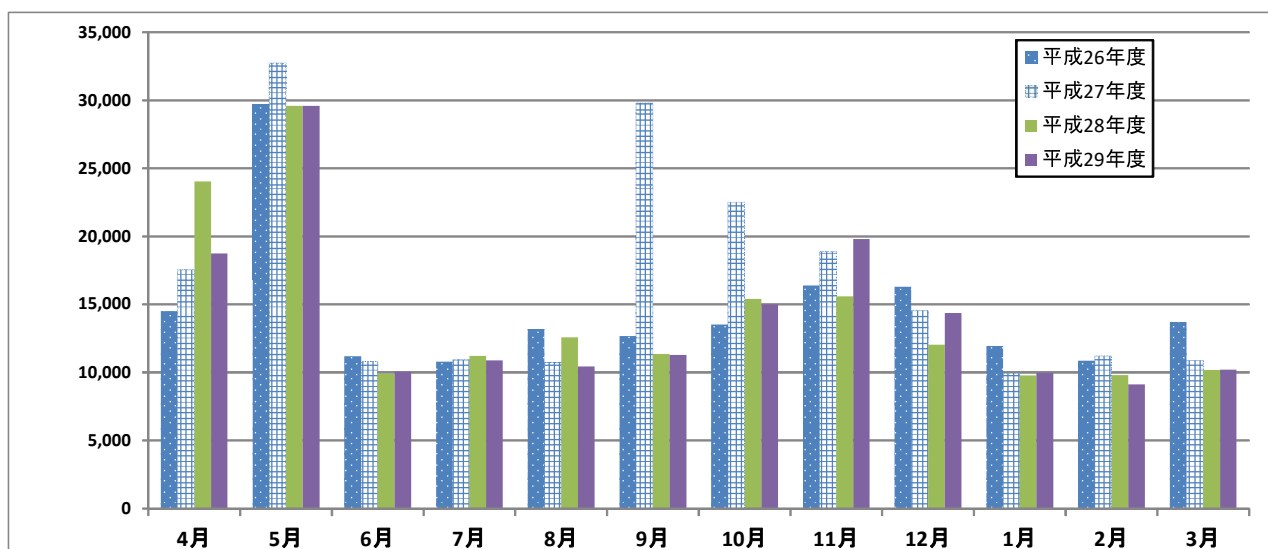
## (2) 主な施設

総合案内棟	291 m <sup>2</sup>	キャンプ場	23,159 m <sup>2</sup>	中央広場	13,400 m <sup>2</sup>	冒険広場	18,000 m <sup>2</sup>
森林学習展示館	645 m <sup>2</sup>	森林科学館	450 m <sup>2</sup>	用具貸出棟	117 m <sup>2</sup>	遊歩道	3,265 m <sup>2</sup>
スポーツの森	10,000 m <sup>2</sup>	花木園	14,000 m <sup>2</sup>	炊事棟	47 m <sup>2</sup>	木炭窯	2基
パークゴルフ場	7,937 m <sup>2</sup>	桜園	6,700 m <sup>2</sup>	市町村の森	4,000 m <sup>2</sup>	駐車場	4,480 m <sup>2</sup>

## (3) 県民の森年度別入園者数

年度	平成元年 ～平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
入園者数 (人)	2,583,227	204,195	183,070	173,537	167,089	171,804	156,856	169,916	178,480	174,814	200,557	171,460	169,472

## (4) 平成26・27・28・29年度 県民の森月別入園者数



# 18. 試験研究

## 18-1 概要

森林資源研究センターは、森林の持つ多面的機能の高度発揮と林業の振興を通じて地域の活性化に寄与するための森林・林業技術及び快適で潤いのある緑地景観の形成に資するための緑化技術を確立する役割を担っている。

このため、平成30年に改正した「沖縄県農林水産試験研究基本構想」に基づき、地域の森林に期待される多面的機能が高度に発揮できるような森林の整備・保全技術の確立に向けた調査研究を推進するとともに、亜熱帯産材の特性を生かした付加価値の高い製品の開発・改良及びきこの類を主体とした特用林産物の生産技術の改善・開発に関する試験研究を推進する。

平成30年度は以下に掲げる試験研究を重点的に実施する。

### (1) 公益的機能の高度発揮

森林の持つ公益的機能を高度に発揮することにより、地球温暖化防止等の環境保全や自然災害から県民の生命・財産を守る技術開発を行う。

#### 森林機能研究

- ① 多面的機能に配慮した海岸防風林の造成技術

### (2) 森林整備技術の高度化

健全な森林の育成、保全を図り、森林の質的内容を高めるため、樹種特性を踏まえた多様な森林整備の技術を開発する。

#### 育林研究

- ① 亜熱帯島嶼域森林環境の変動監視システムによる追跡調査
- ② イジュ優良個体の選抜
- ③ イジュの施肥方法に関する試験
- ④ コンテナ苗植栽による生育特性に関する調査

### (3) 森林保護管理技術の高度化

松くい虫被害の軽減や突発的に発生する森林病虫害の被害を防止する。

#### 松くい虫防除研究

- ① 松くい虫に強いリュウキュウマツ品種の選抜

#### 天敵生物研究

- ① 県花・県木を天敵生物で守る実用化技術の開発と知的財産の取得
- ② リュウキュウマツを天敵で守る技術開発
- ③ 沖縄発森林天敵に関する生物農薬・特許取得のための研究情報整備事業

#### 害虫防除研究

- ① 緑化木害虫の防除技術開発

#### 樹病研究

- ① 南根腐病防除のための薬剤効果試験

### (4) 林産物の生産・加工・利用技術の高度化

県産木材の高付加価値化と利用促進を図るとともに、特用林産物の生産を通じ農林家の所得向上を図る。

#### 木材利用研究

- ① リュウキュウマツの改質による高機能化に関する研究
- ② 除湿器を用いたリュウキュウマツの材料保管技術
- ③ 沖縄そばマカイに用いるリュウキュウマツのヤニ除去

#### 特用林産研究

- ① 菌床しいたけ用おが粉の樹種特性
- ② 沖縄の環境に適したアラゲキクラゲの選抜

### (5) 緑地景観形成・保全技術の高度化

安らぎや潤いのある緑地景観の保全・形成に資するため、郷土樹種を主体とした緑化木の育苗技術の改善や優良個体の選抜と保護管理技術の確立を図る。

#### 緑化研究

- ① DNA解析によるフクギ雌雄判別技術の確立及び有用形質に関する遺伝的解析
- ② リュウキュウマツの遺伝的多様性と進化的位置の解明

## 18-2 平成29年度 試験研究・調査等の成果

課 題 名	報告書名
①オオシロアリタケ栽培に関する基礎的研究 ーオオシロアリタケの分布調査と菌株の収集ー	研究報告
②ハウビカンジュの基礎的栽培方法の検討	研究報告
③タンゲブの育苗栽培技術の開発	研究報告
④沖縄県産木材の水中貯木に関する研究	研究報告
⑤沖縄県産木材を用いた沖縄そばマカイの開発研究	研究報告

「研究報告」＝沖縄県森林資源研究センター研究報告

課 題 名	報告書名
①多面的機能に配慮した海岸防風林の造成技術	業務報告
②亜熱帯島嶼域森林環境の変動監視システムによる追跡調査	業務報告
③松くい虫に強いリュウキュウマツ品種の選抜 ー伝統的な松並木の保全・再生に向けてー	業務報告
④県花・県木を天敵生物で守る実用化技術の開発と知的財産の取得	業務報告
⑤リュウキュウマツを天敵で守る技術開発	業務報告
⑥沖縄産森林天敵に関する生物農薬・特許取得のための研究情報整備事業	業務報告
⑦緑化木害虫の防除技術開発	業務報告
⑧南根腐病防除のための薬剤効果試験	業務報告
⑨オオシロアリタケ栽培に関する基礎的研究 ーオオシロアリタケの分布調査と菌株の収集ー	業務報告
⑩ハウビカンジュの基礎的栽培方法の検討	業務報告
⑪タンゲブの育苗栽培技術の開発	業務報告
⑫沖縄県産木材の水中貯木に関する研究	業務報告
⑬リュウキュウマツの改質による高機能化に関する研究	業務報告
⑭沖縄県産木材を用いた沖縄そばマカイの開発研究	業務報告
⑮DNA解析によるフクギ雌雄判別技術の確立及び有用形質に関与する遺 伝的解析	業務報告
⑯リュウキュウマツの遺伝的多様性と進化的位置の解明	業務報告
⑰松くい虫発生予察事業	業務報告

「業務報告」＝沖縄県森林資源研究センター業務報告

### 18-3 平成30年度 試験研究課題の概要

部門別	研究課題名	試験研究の概要	期間	担当班	区分
森林の公益的機能	多面的機能に配慮した海岸防風林の造成技術	海岸防風林の多面的機能を調査し、これらの機能が複合的に、かつ効率よく機能するために適した樹種の選定および植栽配置を明らかにする。	26～30	企画管理班	県単
森林整備	亜熱帯島嶼域森林環境の変動監視システムによる追跡調査	森林環境の回復過程に関係する基礎データを継続して収集し、分析を行う。	29～33	企画管理班	県単
	イジュ優良個体の選抜	将来的に、森林整備事業に用いる苗木生産への活用を目的とし、通直で成長の良い優れた遺伝的特性を持つイジュの優良個体を選抜する。	30～32	企画管理班	県単
	イジュへの施肥方法に関する試験	肥料の種類、施肥時期及び回数等について試験を行い、効果的な施肥方法を検証する。	30～32	企画管理班	県単
	コンテナ苗植栽による生育特性に関する調査	イジュにおけるコンテナ苗と裸苗の活着及び初期成長の違い、植栽時期によるコンテナ苗の活着と初期成長の違いを明らかにする。また、フクギにおけるコンテナ苗と既存苗の成長や防風効果の違いを明らかにする。	30～32	育林・林産班	県単
森林保護管理	松くい虫に強いリュウキュウマツ品種の選抜～伝統的な松並木の保全・再生に向けて～	地域景観資源であるリュウキュウマツ林を保全・再生していくためにはマツ材線虫病に強いリュウキュウマツで構成された採種園の造成が必要である。そこで、本研究においては、多地域からの抵抗性個体の追加選抜や品種選抜等を行う。	27～31	育林・林産班	県単

	県花・県木を天敵生物で守る実用化技術の開発と知的財産の取得	デイゴヒメコバチの天敵カタビロコバチ及び松くい虫の天敵クロサワオオホソカタムシを利用した防除の実用化に向け、沖縄県独自の防除技術を開発する。	29～33	育林・林産班	県単
	リュウキュウマツを天敵で守る技術開発	在来天敵の効率的な大量増殖方法の検討を行い、また、天敵卵を野外放飼した結果について検証する。	29～31	育林・林産班	国庫
	沖縄産森林天敵に関する生物農薬・特許取得のための研究情報整備事業	デイゴヒメコバチの天敵カタビロコバチ及び松くい虫の天敵クロサワオオホソカタムシの農薬登録及び開発技術の特許取得に必要な研究情報を整備する。	29～33	育林・林産班	県単
	緑化木害虫の防除技術開発	デイゴヒメコバチ及び食用性害虫の防除技術を開発する。	29～33	育林・林産班	国庫
	南根腐病防除のための薬剤効果試験	南根腐病防除に効果のある農薬の抽出と施用方法を開発する。	29～31	育林・林産班	県単
林産物の生産・加工・利用	リュウキュウマツの改質による高機能化に関する研究	リュウキュウマツを改質し耐蟻性、耐候性及び難燃性の向上を図る。	28～30	育林・林産班	県単
	除湿器を用いたリュウキュウマツの材料保管技術	除湿器を用いてリュウキュウマツの青変菌を抑え、かつ割れを防ぐ材料保管技術を検討する。	30～31	育林・林産班	県単
	沖縄そばマカイに用いるリュウキュウマツのヤニ除去	塗装の耐水性・耐湯性に及ぼすリュウキュウマツヤニ分について明らかにする。	30	育林・林産班	県単
	菌床しいたけ用おが粉の樹種特性	菌床用おが粉に適さない樹種の特定制及び混入率を解明するため、発生量調査等を行う。	30～32	育林・林産班	県単

	沖縄の環境に適したアラゲキクラゲの選抜	種菌の選抜、培地の検討及び野生菌株の発生特性調査等を行い、沖縄の環境に適した品種を選抜する。	30～32	育林・林産班	県単
緑地景観形成	DNA解析によるフクギ雌雄判別技術の確立及び有用形質に関する遺伝的解析	街路樹に適するフクギ雄苗の判別技術、生長等の有用形質に関する遺伝子の解析を行う。	28～30	育林・林産班	県単
	リュウキュウマツの遺伝的多様性と進化的位置の解明	DNAマーカーを利用してリュウキュウマツの遺伝的多様性及び琉球列島等島嶼群間の遺伝構造を解明する。さらに、東アジアのマツ属植物の情報と比較することで、進化的位置を解明し、遺伝資源保全戦略を構築する。	28～30	育林・林産班	国庫



## 18-4 平成30年度 試験研究関連業務

部門別	関連業務	関連業務の概要	期間	担当班
森林整備	造林指針の改定（林業普及情報活動システム化）	現地調査や試験研究機関等の研究成果を収集・整理し、既存の造林指針の改定を行う。	単年度	育林・林産班
森林保護管理	松くい虫発生予察事業	松くい虫防除薬剤散布日の決定に役立てるため、松くい虫被害木の割材調査を行い、マツノマダラカミキリの発育状況と気象条件から成虫の羽化時期を推定する。	毎年度	育林・林産班
	環境配慮型による緑化木保全対策事業	街路樹や公共施設等の緑化木を病虫害等から保全するため、天敵の活用等低コストで環境に配慮した防除技術等の研究開発を行う。	29～33	育林・林産班
	沖縄型森林環境保全事業	松くい虫被害の先端地域の把握のため、枯死木から採取した材片から形態による同定とDNAによる検査を実施し、松くい虫による被害木であるかを判定する。	29～31	育林・林産班
林産物の生産・加工・利用	山菜（ホウビカンジュ）の施肥効果試験（林業技術現地適応化事業）	ホウビカンジュの施肥効果について試験を行い、反収増加及び株の適正管理について検証を行う。	単年度	企画管理班